

2027年国際園芸博覧会 サステナビリティ教育計画（概要版）

2025年3月策定

2026年9月更新

公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会

- AIPH（国際園芸家協会）の規則等に基づき、サステナビリティ戦略、実施計画等の内容を踏まえて、サステナビリティ教育に関するアクションの実施計画や評価等を記載した「サステナビリティ教育計画」を2025年3月に策定し、2026年9月に更新した。
- 調達コードの策定・運用や、主催者展示等を通じた情報発信、学生との連携、職員への研修等をはじめ、**全てのステークホルダーに対して、サステナビリティに関する意識向上や学習を促進。**

1 はじめに

- 教育計画の目的
- 対象者

2 実施計画

- アクション
- ガントチャート

3 評価

- 実施したアクションの評価

1 はじめに

- 教育計画の目的として、本博覧会の準備、開催運営等を通じ、全てのステークホルダーに対して、サステナビリティに関する意識向上や学習を促進することを設定。

主な記載項目	概要
目的	本博覧会の準備、開催運営等を通じ、全てのステークホルダーに対して、サステナビリティに関する意識向上や学習を促進する
対象者	・ 実施計画で設定した、以下の9つのステークホルダーから対象者を設定 来場者、出展者等、ボランティア、市民・地域社会、NPO・NGO、事業者、有識者等、政府・自治体、協会職員・運営スタッフ等

2 実施計画（アクション）（1/2）

- サステナビリティ実施計画に記載した目標・アクションのうち、サステナビリティ教育に関する目標・アクションと、追加を含めた計30のアクションを記載。

サステナビリティ実施計画の目標	アクション
脱炭素化に向けた温室効果ガスの排出削減	・ 温室効果ガスの削減対策の実施
省エネ型の設備の導入	・ エネルギー使用量の削減対策の実施
持続可能性に配慮した建設資材の調達	・ 持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用
会場計画へのユニバーサルデザインの導入	・ アクセシビリティ・ガイドラインの策定・推進
海外からの参加者（公式参加者）に向けた情報提供	・ 海外からの参加者（公式参加者）への各種規則・ガイドライン等の策定・周知
食品ロスの削減の推進	・ 飲食に関するガイドライン等の策定・推進
ESMS（イベント・サステナビリティマネジメントシステム）の構築	・ ISO 20121の認証取得・運用

2 実施計画（アクション）（2/2）

- 教育計画の策定及び更新に伴いアクションを追加。

追加時期	追加的アクション
教育計画の策定時	- 資源循環の取組の推進 - 県立横浜瀬谷高等学校等による「フラワーストリートプロジェクト」との連携 - 県立農業高校との共創プロジェクト「GREEN LEADERSHIP CLUB」の推進 - ヨコハマ未来創造会議との連携 - 大学共創フォーラムの開催 - 教育プログラム コンセプトブックの活用 - 主催者展示を通じた情報発信
教育計画の更新時	- ネイチャーポジティブの実現に向けた取組に関する情報発信 - 廃棄物の適正処理等に関するガイドラインの策定・周知 - ボランティア・運営スタッフに向けた研修 - テーマ催事を通じた情報発信 - ダイバーシティ＆インクルージョンに関する情報発信 - 市民参加（共創）プログラム - オンライン学習プログラム

3 評価

- 「2 実施計画」に記載したアクションのうち、教育計画の策定及び更新時点で実施したアクションについて、日程、実施人数、振り返り（良い点、改善点）の評価を記載。

内容	アクション
評価を更新	・ 工事に関するガイドライン等の策定・推進 ・ アクセシビリティ・ガイドラインの策定・推進 ・ 海外からの参加者（公式参加者）への各種規則・ガイドライン等の策定・周知 ・ 飲食に関するガイドライン等の策定・推進 ・ 資源循環の取組の推進 ・ 県立横浜瀬谷高等学校等による「フラワーロードプロジェクト」との連携 ・ 県立農業高校との共創プロジェクト「GREEN LEADERSHIP CLUB」の推進 ・ 教育プログラム コンセプトブックの活用

【事例】 県立農業高校との共創プロジェクト「GREEN LEADERSHIP CLUB」

- 神奈川県立の農業高校 5 校の生徒計49名による、未来のための共創プロジェクト。
- 花や緑、農・食の未来を牽引する次世代のリーダーの育成を目指し、本博覧会について学び、積極的に参加できる場として活動を実施。



【事例】教育プログラム コンセプトブックの活用

- こどもたちの自ら考える力や想像力を育み、新たな価値観、行動変容のきっかけとなることを目指して、2024年11月にコンセプトブックを公表。
- 2025年7月にはデジタル×探究教材を公表し、児童・生徒の探究学習の機会を提供中。



【事例】 ネイチャーポジティブの実現に向けた取組に関する情報発信

- 2025年11月、ブラジルで開催された気候変動枠組条約COP30のジャパン・パビリオンにて、サイドイベント（農林水産省主催、国土交通省及び環境省共催）を実施した。
- 本イベントでは日本政府、スタートアップ企業、科学者が登壇し、カーボンネガティブな農業実践者に焦点を当て、ネイチャーポジティブ社会の変革に向けて課題である資金調達は企業や行政により取り組まれるべきである等の意見交換がなされた。



気候変動枠組条約COP30のJAPAN PAVILIONにて

【事例】ダイバーシティ & インクルージョンに関する情報発信

- 女性活躍・ジェンダー平等推進の取組として、「Inclusion（包摂）」を、一人ひとりが自分ごと「I（私）」として捉えることを目指す「ダブルアイ」プロジェクトを実施。
- 2026年3月に、本博覧会開催1年前と国際女性デーに合わせたイベントを開催し、大阪・関西万博のレガシーとして、女性のジェンダー平等を本博覧会へ引き継ぐことを発信。



「国際女性デー」にあわせたイベント

【事例】主催者展示を通じた情報発信

- 主催者展示（テーマ館、園芸文化館）は、本博覧会のテーマを体現する国際園芸博覧会のシンボルとなる展示。
- 一人ひとりが自然との共生の重要性に気づき、「自分にとっての自然とのつながり方」を発見し、意識変容・行動変容のきっかけとなる展示体験を創出する。



展示イメージ